

ではないのである。指導に際しては、冷静に一般生徒の実態を把握し、個々の具体的な事態に即して合理的に対処してゆけばよいと思われる。現に、服装、掲示問題でも、最近が必要な場面に依じて生徒議会と教官会議との十分な討議を経て、納得のゆく処理がとられた事例が数回ある。

執行部や議会での論議が各HRでの十分な論議を踏まえ、一般生徒の意向を反映しているかどうかを、基本的な観点として指導に当たり、一部生徒の利己的な欲求と単純な発想に根ざす不法な活動に対しては、断固たる態度で臨まなくてはならない。同時に、多数生

徒の冷静な分別を信頼し、誤解による混乱を招かないように、HR、議会、集会などを通じて納得のゆく説明をすることが緊要である。そのためには、教師側において、さまざまな角度からの十分な討議を経た上の説得力ある回答が用意されていなければならないことは言うまでもない。民主的で建設的な生徒会活動を着実に展開させてゆくための前提は、生徒部を中心として教師全体が、実践を通じて教育理念をきびしく確認し合い、協力的な指導体制を強化することであると言えよう。

〔Ⅱ〕 中学の文化祭

服 部 晴 子

(1) はじめに中3の文化委員が生徒部長の先生の話聞きたいという。そこで米山先生にきていただき20分ほど中学文化委員会はどんなことをするのか、又これからどういう態度で望んだらいいかということなどを委員全員できき、大変啓蒙されたところで、ひき続き文化委員会を開くことになった。そこででてきた委員の言葉は、「文化祭って何だろう?」「何をやるの?」「私わからないわ」「昨年のことを言うと、体育館でクラスの出し物をしたり、映画をみたり、討論会をして一日全員で楽しんだのよ」そのうち中1の文化委員が「私そんなことクラスで説明できないわ」「私もできないわ」「クラスで説明できないことをするかしないかなんて、もっとできないわ」という。そこで中3の文化委員が、中1の2クラスに説明をするためS.Tの時間に出掛けることになった。説明する内容はまず中学のみ一学期の終りに毎年小文化祭といって生徒会が主になって行事をすること。特に強調することは生徒、特に中学独自の行事で大変だけれどもうまくいけば「やった!」という充実感があること、自分達の行事であるから私達がするのだ、意義目的ということよりもまず小文化祭をやりたい。強いていえば唯一の中学生だけの行事だから私達にとって意義があるのだ、といった気持であった。翌日のS.Tの時間には各々の中1の担任、倉田先生および天野先生(富田先生は研究日であった)にそのことを、お願いして時間をいただいたのである。51年度の中学文化委員会というのはそんな出だだった。そしてそれぞれクラスの意見は多数決では小文化祭をするということになった。

(2) そのうち1日の時間帯に何をするかということ

になり、講演、音楽コンクール、映画、フォークダンス、クイズ、etc…数多くあがったけれど、最終的には講演、映画、クラス発表、グループ発表、部発表ということにおさまった。その段階あたりまでは文化委員のもたらす各々のクラスの様子は、やる気十分でどんな素晴らしい小文化祭になることかと大いに期待し気分をよくしていた。そんな状態のところまで生徒部の先生達の話し合いを持っていただいた。ところが、そこで出てきたのは全く逆のことで各クラス共生徒は小文化祭をする意義も認めず、する気力も全然ないということであった。各クラスの文化委員の話を書いているとクラス全体がそうであるような錯覚におちること、又そうありたいという顧問の願いや、中学生徒部教師全員が副担であったことも重なって、クラス全体の雰囲気など、一向につかんではいなかったのだ。

毎年小文化祭の意義について十分討議されていたかは、わからないが昨年はよく討議され、皆納得のいったところで行なわれたということは、今年度のようなやり方を大いに反省して今後気をつけなければならないことだと思った。しかし意義について十分討議してから行なうということは、生徒部はもちろんのこと、担任教師の協力や時間をもっと多く必要とする。今年度でも小文化祭の意義について話し合われた際、クラス担任の協力が得られたところはうまくいっていた。

(3) 本年度の経過

4月26日 委員長はじめ役付をきめる。

4月27日 米山先生の話を書き。中学だけの唯一の行事。文化委員の動きをはっきりさせる。計画を早く立

てる。中1のクラスに中3の文化委員が小文化祭の説明に行く。

4月30日 小文化祭を行うことに決定。内容の検討。プログラム原案, 8.40~4.00終了とする。

5月10日 フォークダンス(中1が企画), 映画(中2が企画)講演(中3が企画)部, クラブ, グループはその団体の責任者, クラスはそのクラスの文化委員が中心になって進める。

5月12日 小文化祭のテーマ「想像と創造」にする。

5月24日 執行部と合同の委員会をもつ。文化委員より執行部へ朝の集会の時, フォークダンスの練習をさせて欲しいと要望を出す。

5月26日 プログラム原案作成。クラス発表, 部発表, 講演, グループ発表, 映画, フォークダンスの6つにきまってきたが, どうしても時間が長くなるためもう一度各クラスの意見をきく。

5月27日 フォークダンスを多数決でやめる。

5月28日 生徒議会, 文化委員会合同で時間を短縮することについて討議した結果, 講演の時間を短くすることに全員で決定。

(5月31日) 生徒部会で中学の文化委員会および生徒会の経過説明および各意見をきく。各クラスの様子を知る。教師の意見としてクラス発表に合唱を入れることをきめる。

6月1日 執行部と文化委員でプログラムを作成。

6月5日 合唱をクラスの共通の発表としてまとめる。すでにクラスの出し物を練習しているところは, 必ず合唱も全員であることを約束する。

6月10日 教官会議に実施案の提出。一学期の時期をとらえ, 文化的行事に積極的に参加させることにより集団づくりを進める。教師から働きかける場, 生徒が自主的に作りあげる場, 全員が目的に向かって努力, 協力できる体制づくりを目的とする。ここで6月の第3週の特活時にクラスのリハーサルを行うこと。又練習時間の確保, 担任, 教科担任の積極的指導, 各委員会が協力体制をとること, 小文化祭当日の中学担任の高校授業をはずし, クラブ, 体育授業への配慮を認めた。

6月28日 小文化祭当日, プログラム

8.30	40	9.00	9.30	10.45	11.45	12.30
入場	アイサツ	映画	講演	演劇部発表	グループ発表	昼食
12.30	13.10	14.30	グループ発表	15.30		
	合唱クラス発表	演劇(中3B)				閉会

講演, 稲垣寿年氏「戦中, 戦後の子どもたち」

(4) 小文化祭における反省

小文化祭が成功したと思う生徒は中3で42/80, 中2で40/76, 中1で47/74という数字になりおよそ53~64%であった。来年も小文化祭をやりたいという生徒は中2で50/76, 中1で66/74, 66%~89%で中1は期待が大きい。よかったのは, グループ発表, 講演, クラス発表, 映画, 部発表の順位になり, よくなかったのは部発表, 映画, 講演, グループ発表, クラス発表の順になり, 面白い。アンケートによるとどの学年も楽しい文化祭にが一番多く, 自主的にやりたいと希望はしているが自分が積極的に動かずに誰かに楽しくしてもらうのを待っているという感じが強い。——個人グループがアンブを借りてきてその結果学校側もそれに便乗し, その借り代をどうするかという問題や, 暗幕の金具がたくさんとれていてうまく幕が張れないことや, 担当の教師が高校の授業のため当日小文化祭に参加できないことなど, むずかしいことが色々ある。教師集団の反省では, 教師の対論不足による生徒のとまどいや高校中心で中学軽視の傾向はどうか。事実生徒部は精力をほとんど高校にとられてしまいそうで, 中学生が積極的に教師のところへ出向き教師の注意をうながす必要があると思う。(本年の講演における講師のように。)しかし本校の中学生は他校に比較すれば自主性はあると思われる。

(5) 秋の文化祭について

中学生の動きは積極的でなく, 高校の方がきまってしまうからというような中ばあきらめたような態度で, 又そうせざるを得ない面もあり反省のみを記すことにする。

中高合同の文化委員会の反省では, 準備段階においてプログラムの作成をもっと早くすること, 連絡を中高および委員とクラスとも密にとって意欲を出したかった。講演の時間を午前にもっていきたかった。講演の内容は期待以上でありよかった。放送部がよく役割をはたしてくれてよかった。映画は少し難しく予備知識がほしかった。(中学ではよくみている面白かったと答えた者が多くいる)文化祭の日程間に上映することについてもっと検討すべきだ。音楽コンクールはクラスによる差がありすぎ前もって様子がかめなかった。採点基準について問題があると思われる。バザー特に食品バザーの前売りについてはもっと研究しなければいけない。当日券もできるかぎり欲しい。部やクラブ発表をみってくれる人が少なくて残念だ。フォークダンス(中)文化講座はどれも楽しく, 充実しててとてもよかった。中学全体の意見としては, 講演が自分のためになったと考えている者が多く, 音楽コンクールはまじめな者がほとんど, フォークダンスは楽し

かった者が60%ほどもあり、休日もよく、ただ食品バザーの当日券がほしいこと以外は文化祭を楽しく過した者が多かった。

「これからはバザーもいいけれどクラブ発表にもっと関心をよせてほしい」「意欲的になるのがおそすぎたと思う」「学年で合同練習を早めにする、ライバル意識がでてきてよいと思った。」「フォークダンスはともかく楽しかった。年の大きな行事の時ぐらいこんなことがあってもよいと思う」「毎年高校生にひっぱられるとか、中学は何もしないとかいわれるが今年は中学独自の音楽コンクール、フォークダンスなどがありずい分

進歩したと思う。」「来年は何か積極的に参加してみたいと思います。」「中学は高校のお客様みたいでお金を使いすぎた。」以上は中学生の反省のことばをあげたものである。小文化祭も秋の中高合同の文化祭もどちらも問題は色々あって考えさせられてしまう。こうしたことを考える時、文化祭という名前ですべて中途半ばなことをおこなうより、単独に映画会、講演会、音楽会などを分解して1日又は半日をあてて各学期にふりあてて行事をするというのいいのではないだろうか。文化祭とはどんなことをするものなのか、もう一度考えてみる必要があると思われる。

〔Ⅲ〕文化祭—その報告と私見

山 田 雄 一

(1) はじめに

本校における年間最大の生徒会行事は、やはり文化祭であろう。多層化された生徒¹⁾が、しかも中、高合同という本校独特の組織の中で造り出す一つの大行事、そこには数々の問題・苦勞はあるが、生徒の自主的活動という柱²⁾のもとに、教材外特別活動のもつ大きな教育的意義があるはずである。そして中・高合同で行う本校文化祭は、まさに、多層化の中での生徒指導をどうするか、という我々の昨年からのテーマの集約なのである。そこで、昨年度の文化祭実践のあらましを報告すると共に、そこで生じた問題点を検討し、文化委員会顧問として痛感した私見をここで述べておきたいと思うのである。

1) 本校研究紀要第21集 参照

2) 本校研究紀要第20集 参照

(2) 文化祭報告

＜資料1＞ 文化祭の準備経過概略（高校中心）

4/28 文化委員会

委員長、副委員長、書記決定

本年は、文化祭を行うのなら、準備をできるだけ早くやることを確認。

5/10 文化委員会

前年度の文化祭を反省して、文化祭についての意見を各クラスでまとめてくる。

5/24 文化委員会

本年度、文化祭をやりたいのか否かの大前提を各クラスで人数を調べる。（一般生徒の文

化祭に対する関心を高めるのが意図）

6/1 大半が文化祭をやりたいという。その理由は「楽しく意有義な時間を持ちたい」「一つの目標をもって学生生活が楽しめる」等。

6/4 文化祭で何をやるか討論

第1回アンケート実施。（資料2参照）

6/23 アンケート結果から日程 内容検討

6/30 日程3日案出る

7/10 休日を入れた場合の対策検討、招待状、警備に関して。

分科会に変わって文化講座を行うことに決定。バザー・部クラ・個人発表受付。

ポスター・表紙・歌詞等募集。（夏休みに製作を呼びかける）

日程2日案の原案作成。

7/12 中高合同文化委員会

講演候補者選出→各クラスで希望調査。

7/14 講演者交渉順位決まる。（1位金田一春彦）

日程2日、3日でもある。（→内容次第）

9/2 講演者決定、それに伴うプログラム変更。

音コン去年並みで実施を告示。

映画アンケートを実施。

9/8 文化講座申し込み少のため広く募集。

内容の大筋きまり、日程も11/1の午後準備11/2.3文化祭、ということに確定。

9/12 映画アンケート出る。（1位 神田川）

招待状形式の意義検討。

バザー・発表の場所配置

9/中 映画内容でもめる。原案完成。